

早いもので、新型コロナウイルス感染症の国内感染者第1号が確認されて丸3年が経ちました。その間、バイデン政権の誕生と米国内の分断、東京五輪・パラリンピック等に代表される世界的イベントの開催、更に、ウイグル他の人権問題、頻発する北朝鮮の弾道ミサイル発射、中国による香港実行支配、ウクライナ戦争の勃発、安倍元首相の暗殺、習近平総書記の3期目への続投他、明暗を含め、目まぐるしいほどの出来事の連続です。

一方で、ロシアへの経済制裁等の反動で、エネルギーや食糧資源の不足が世界的に拡大し、国内的には、それらの価格高騰だけでなく、急激な円安の進行により企業経営や国民生活を圧迫しています。大げさに言えば、国の安全保障を考える上でも、政府、官公庁、企業及び国民などが、エネルギーや食糧資源の安全保障にどう取り組むのか、喫緊の課題なのではないでしょうか。

日本の経済基盤は、以前にも増して非常に脆弱になっていることは確かで、現にかなりの中小企業が廃業等に見舞われ、勤労者の給与水準も一向に伸びずに推移しています。

併せて、日本の人口減少が加速していることも見逃せず、短期的な処方箋だけでなく、総合的かつ中長期的な施策が急がれるように思います。

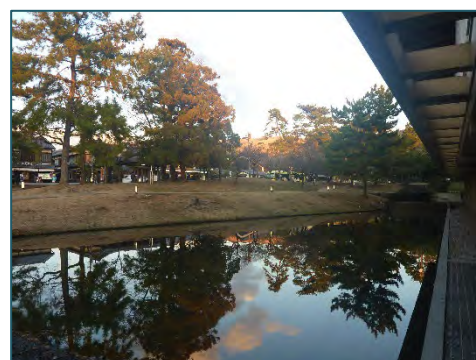
さて、遅ればせながら、政府のコロナ禍に対する動きにも変化が見え、感染症法の分類の2類から5類への移行を今春から実施する方向が打ち出されました。今後、社会活動の活発化に加え、当倶楽部も愈々本格的に活動する、いいきっかけになればと思います。

当面、2月8日に「明るい社長会」の初開催を、3月2日には「明るいセミナー」の開催を予定しており、今後の当倶楽部の動きにもどうぞご期待ください。

## < 2月の送付物 >

- ① 日本一明るい経済新聞 2月号
- ② 年会費ご納入のお願い (該当者のみ)

奈良国立博物館  
前の夕暮れ



## < 2月の活動予定 >

2/4(土) 気楽な ZOOM サロン(27)	当倶楽部会員専用の交流の場です。	20:00~21:30
2/15(水) 役員会議(32)	「令和4年度の事業活動状況」	13:30~14:45
2/15(水) 明るいシステム検討会議(15)	「AKS 認証企業への活動状況」	15:00~16:15
<b>AKS 市民大学 (ZOOM 形式)</b>		
2/9(木) 菊池教室(25)	「感性を育む和学講座」	20:00~21:30
2/22(水) 柴原・松居教室(18)	「みんなで考える明るい職場」	20:00~21:30
2/25(土) 宮崎教室(29)	「愛と善意のことばにも NG ワードが!!」	20:00~21:30

“いい呼吸”は、「小さな社会貢献」を目指します。

——近年、「おひとりさま急増」と「頼れる家族がない」現状があります。65歳以上のおひとりさまが700万世帯、おふたりさまは740万世帯とされています

黒田 能弘(よしひろ)

寒き厳しき折、いかがお過ごしでしょうか？ あなた様のご健勝を祈念申し上げます。

寒いこの時期、冒頭より暗い話で恐縮ですが、サブタイトルに記しました——近年、「おひとりさま急増」と「頼れる家族がない」現状があります。65歳以上のおひとりさまが700万世帯、おふたりさまは740万世帯とされています。というのが、現実の事件となって、昨年12月30日付け・朝日新聞のトップ記事にありました。

それは、「増える無縁遺骨 弔う人なく[行政が葬祭費負担・念4万8622件]とあり、その2面には。「身よりなく、いても頼れず、ひとりの死」とあり、「島田陽子さん 渋谷区が2週間後に火葬」との記事を読み、私は驚愕したのです。あなた様はご存じでしたでしょうか？ あの国際派女優として活躍した島田陽子さんに、死後・身元引受人がいなかったというのです。亡くなる直前には経済的に困窮状態にあったという。区が2週間ほど遺体を補完したのち、8月に茶毘に付した。島田さんの遺骨はその後、知人が引き取り、島田さんの両親が眠る墓に納骨されたという、ありました。

そう、私は驚愕したのです。

それは、私が昨年11月より始めました、「よりよく生きるための終活（生前整理）・法的支援講座」なる勉強会（無料）の講師として、介護保険法・成年後見制度といった将来関わることになるであろう法律的な説明や「認知症」のことなど。そして、主に「おひとりさま」向けの「死後事務の委任契約」や「身元保証業務」のことなど、生・老・病・死の多岐にわたる知識と情報をお伝えしています。80歳より開眼した「人のお役にたつ」を使命とした、「小さな社会貢献」のつもりの業務です。

今までの葬儀社が主導した「暗い終活」といったイメージを払拭し、「明るい前向きな終活」としたいのです。そして、終活は晩年をよりよく生きるための、“人生の棚卸し”。人生には、いいことも悪いこともあったはず。残すべきものと、捨てるべきものを考え、整理する。それを踏まえて、じゃあ、これからどう生きるのか、と自身を見つめ直すいい機会。あくまでも終活は、井間をよりよく生きるための人生の断捨離であり、配偶者に委ねるのではなく、自身に責任ある自立した活動と、私は考えています。

関心のある方は、ご連絡の程を。ご一緒に勉強いたしましょう！

“いい呼吸”を広める呼吸道場代表 兼  
NPO法人高齢者・障がい者後見人の会 代表理事

◆西国三十三所札所巡り旅 (7) 西国 第6番札所 壺阪山「南法華寺」(奈良県高取町)  
本尊：十一面千手観世音菩薩

阿久根芳臣

行程：大阪市内から 57km (阪高、近畿道、南阪奈道、京奈和道、県道 118号)

全行程1時間のドライブの内、四分之三は自動車専用道路を乗継いで行けるのでオートバイロットの利用度は高い。京奈和道(無料)の御所ICから地道を10分程で着く。高松塚古墳の明日香村から南へ3キロ程の処にあり、駐車場も1日500円と安くて広く拝観料は大人600円だ。

礼堂に続く本堂・八角円堂のご本尊は殊に眼病に「靈驗あらたか」な仏として、広く信仰を集めてきたが明治のころ、失明回復祈願にまつわる沢一・お里の夫婦愛を描いた浄瑠璃「壺阪靈驗記」が巷で大きな共感を呼び、寺はいっそう有名になった。

私の妻は、父親が浪曲師並みによく家で謡っていたらしく、今でもひと節唸れるほどだからその記憶力に驚愕する。しかも上手い。三つ子の魂百までとは云うが尊敬に値する。

ここ壺阪の地は古来より「吉野詣」での交通の要衝であり、そのお陰で寺も栄えてきた。栄華を極めた藤原道長が吉野詣での折に泊まったり、「枕草子」を著した清少納言が、説教を聞くためにわざわざ参ったというから平安時代からの名高い大寺であったのだろう。

寺域全体が木立に覆われた山に囲まれ、広大な敷地に様々な施設があるが山の斜面に立ち、木々の間からニョキッと顔を出す「白い大観音石造」が特に目を引いた。

ここのお寺がインドで続けている「ハンセン病救済活動」の縁で釈迦の石造レリーフなどと共にインドから招来されたものらしい。堂内にも「増長天立像」、「薬師如来坐像」、「不動明王座像」等など見どころはたくさんある。奥に上がると眼病予防のご祈祷所もあり、ゆっくり回れば2時間は必要だ。是非、一度はお参りして頂きたいところである。

(詳しくはお寺のホームページで検索をしてみてください)

ニョキッと白い大観音石造



多聞天像



愛染明王と大日如来像

